

《閑静な俣野別邸庭園から藤沢宿へ》

天候が危ぶまれた日でしたが、小雨決行の散策、予約なしの会に、参加者も22名集まり出発しました。今回は、われわれ生涯学習西柴の運営委員の案内です。

＜実施日 平成30年11月6日（火）＞



《鉄砲宿の伝説》

むかし、遊行寺の近くに大蛇を飼っている金持ちがいたが大食の蛇なので、蛇を池に捨てたが、その蛇がそこを通る旅人に所持品を巻き上げる悪さをするので、鉄砲で、ズドンと一発・一発・成敗した。その鉄砲を撃った所を「鉄砲宿」と呼ぶようになった。と云う謂れを解説する散策担当委員のSさん。・・・鉄砲宿バス停の近くで・・・



《俣野別邸の邸内で》

邸内で係の方の詳しいご案内と解説伺いました。

俣野別邸は、昭和14年に佐藤秀三による設計で建てられた和洋折衷の建物です。



《別邸テラスで持参の弁当を》

この邸宅は当時の住友家当主であった16代住友吉左衛門が発注した住宅で、住友家の東京本宅の別邸として、現在の横浜市戸塚区東俣野町の丘陵地に建設されたもの。昭和前期のモダニズム影響下におけるハーフティンバー・スタイルを取り入れたものとして評価され、平成16年7月に国の重要文化財に指定され、現在は横浜市が公園施設として再建し、公開しています。



《遊行寺の本堂》

一遍上人から4代目に当たる呑海が遊行上人の座を、弟子の安国に5代目をゆずった。遊行寺という名称は遊行上人の住まれる寺というところからきている由で、正式には「藤沢山無量光院清浄光寺」という時宗の総本山・・・との解説でした。

俣野別邸からここまでの道は少々雨に降られましたが、皆さんめげずに頑張りました。



《ふじさわ宿交流館》

平成28年に開館した藤沢宿に関する資料館。

休憩スペースもある資料館で、藤沢宿のジオラマや資料展示、また地図や解説資料などもあって、資料館の方が解説をしてくださいました。



《感応院の明神堂は回転するお堂》

感応院は建保6年（1218）源実朝を開基として創建された真言宗の寺。

境内にある三島明神堂は建久4年（1193）、源頼朝が富士の裾野で鷹狩りを催した時、狩りの安全を祈願するため大鋸（だいぎり）の三島明神の分霊を勧請したよし。この明神堂は、360度回転する大変珍しい造りで亀腹基壇の上に載った一間四面の宝形造りのお堂で、四面が同じ造りになっている由。押せば回る気がしました。



《江の島道を歩く》

江戸時代の後期になり、世の中が安定すると、信仰と物見遊山を兼ねて講中を結んで参詣の旅に出る人が多くなり、特に男神の大山不動尊と女神の江の島弁財天をセットにして参拝することが流行した。

藤沢宿は、東海道から大山や江の島に行く参詣道の分岐点になっていたもので、大変賑わった由。その「江の島道」と言われる通りを、藤沢駅へ向かって歩きました。



《庚申堂の前で》

庚申信仰は平安時代に貴族社会から始まったといわれるが、本尊の青面金剛像は悪鬼や病魔を払いのけるといわれ、邪気を踏みつけた三面六臂の像で憤怒の形相をした木彫りの仏像。開帳は60年に一度で、次回は平成52年（2040）とのこと。